

登録医ニュース

## メタセコイア

第43号  
2017.12

編集・発行/東北医科薬科大学病院 医療連携センター

〒983-8512 宮城県仙台市宮城野区福室1丁目12番1号 Tel(022)259-1221(代表)  
Tel(022)388-9593(医療連携センター直通) Fax(0120)25-9121(医療連携センター直通)  
Eメールrenkei@hosp.tohoku-mpu.ac.jp ホームページhttp://www.hosp.tohoku-mpu.ac.jp

## まだ見ぬ将来のために思うこと

東北医科薬科大学病院 肝胆膵外科診療科長 かたよせ ゆう 片寄 友

平成29年7月に肝胆膵外科科長として着任しました。最初の印象は、周囲に高い建物がないので見晴らしが良く、景色の話患者としながら回診しておりましたが、先日10月の衆議院総選挙時に通過した台風21号のため45号線が冠水し、通勤時に危うく車が水没するところでした。ハザードマップの浸水想定地図を見ると、宮城野区扇町あたりが低く予測通りに水が溜まっており、改めて自然災害の恐ろしさを実感するとともに自分の予備知識不足を痛感しました。

さて、当院の消化器系の外科は、消化器外科と肝胆膵外科の二つありますが、現在はまとまって活動しており、入口は二つですが中では一体となり協力しながら診療しております。消化器外科は食道疾患から痔、鼠径ヘルニアまで何でも診療しています。肝胆膵外科は、胆嚢結石症・胆嚢炎などの一般的な疾患から肝胆膵の悪性腫瘍まであらゆるレベルの疾患に対応すべく体制と整えております。詳細は後続のページを参照して頂ければ幸いです。

東北医科薬科大学病院の開設が2年目ですので、医学部第一期生も2年生となりました。10月下旬より臨床講義が始まりますが、福室に講義棟はないので小松島の本部で行われます。来春からは福室にて講義ができるように、急ピッチで研究棟が病棟の西側に建築中であります。自分が学生だった頃と比べると随分早く臨床講義が始まりますが、習得すべき医学の情報量の増加と、卒業時に「医師として求められる基本的な資質・能力」を身につけ多様なニーズに対応できる医師の養成のためであります。医師に対する国の期待の表れだと思っておりますので、しっかり教育を務めるつもりであります。

当院は地域医療・被災地医療ができる医師の教育・養成と東北地方への定着は大学の設立目的であります。望まれているのは優れた臨床医の育成であり、当院も皆様から信頼できる病院を目指しております。登録医の先生方におかれましては、これまで通りのご支援、ご指導をよろしくお願いいたします。



研究棟建設写真（平成29年10月26日撮影）

## 肝胆膵外科のご紹介

肝胆膵外科疾患は、これまで消化器外科にて診療してきておりましたが、大学病院となり外科の診療体制を拡充させるために設立された診療科であります。担当する主な疾患は、難治性の代表と言われる膵臓癌をはじめ、胆道癌、肝癌などの悪性腫瘍、ならびにこれまで通りの胆嚢結石症、胆嚢炎などです。とくに肝門部胆管癌や膵全摘などの各科の協力および多くのメディカルスタッフのマンパワーが必要な疾患にも対応すべく体制を整えております。また、膵臓を専門とする消化器内科医の増員に伴い、専門性の高い慢性膵炎患者などの増加が見込まれ、慢性膵炎に対するFrey手術も積極的に進めております。外科手術だけでは治療が困難な場合には、腫瘍内科、放射線治療科と密接に協力しながら、緩和サポートチームおよび栄養サポートチームを加えて集学的治療を推進しております。

さて、肝胆膵外科として、地域医療の一環として地域と密接関わりたいと考えております。そのため数多くある一般的な胆嚢結石症を一つのテーマと考えております。具体的に一つ例を挙げると、胆摘後症候群です。胆摘後症候群というと、治療を担当している外科医でも忘れ去られている病態で、「あ、そんなのあったね」と軽い感じに扱われます。胆摘後症候群を検索すると1980年代に多くの論文が出ておりましたが、当時は開腹術が主で、手術に関わる胆管損傷、創痛などが主な内容でした。その後、腹腔鏡での手術が広まり、侵襲が少なく、術後の訴えが激減し、胆摘後症候群という概念が忘れ去られました。しかし、一部の患者にとって過敏性腸炎の様な高度な下痢にて生活の質を落とされている患者もおり、軽視してはいけない病態と考えております。胆摘後症候群についての大規模な臨床研究はなく、われわれ外科医もはっきりした回答を持っていないので実情です。このように、身近な疾患でもまだ解決されていないことがあり、地域密着型の大学病院としてのテーマと思っております。

当院は大学病院ではありますが、臨床を重視した診療をして参ります。今後とも、引き続きよろしく申し上げます。



前列左から片寄医師、岩指医師

# 当院消化器外科では切除可能食道癌に対して、低侵襲治療として胸腔鏡下食道切除術を施行しております

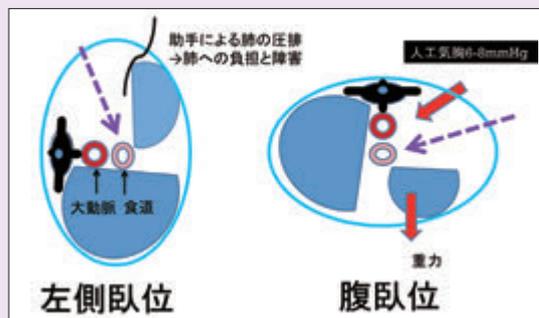
従来食道癌手術は大手術の部類に入り、合併症が多く侵襲の大きな手術の代名詞でもありました。近年の外科手術においては疾患の根治性を担保することはもちろんですが、患者さんに優しい術後機能や早期回復を考慮した低侵襲手術が望まれております。

食道癌手術においても手術の低侵襲下が求められており、2003年に胸壁の破壊を回避した胸腔鏡下の食道切除術が本邦に導入されました。この術式により、術後の呼吸機能の維持、疼痛の軽減が得られております。

さらに近年では従来左側臥位で施行していた体位を腹臥位とする手術が導入されております。(図1) 重力と人工気胸圧による術野展開によって肺の圧排を回避でき、浸出液や血液は腹側にたまるため食道周囲の術野がドライに保たれます。(図2) 腹部操作においては腹腔鏡を用いた手術が創の縮小や疼痛の軽減に寄与しております。当院においては腹臥位胸腔鏡下食道切除術と腹腔鏡補助



(図1)



(図2)



(図3)

下 (Hand Assist (図2) Laparoscopic surgery; HALS) による胃管再建を標準術式としております。(図3)

周術期の回復支援として、1. 生体侵襲反応の軽減、2. 身体活動性の早期自立、3. 栄養摂取の早期自立、4. 周術期不安軽減と回復意欲の励起、を意識した周術期管理体制が術後患者の身体的回復を促進に重要と考えられております。当院でも術前からの管理栄養士による栄養介入、歯科による口腔ケア、理学療法士と連携した早期リハビリプログラムによって患者様の満足度を維持しつつ在院期間の短縮を目指しております。(図4)

## 食道癌集学的治療にも取り組んでおります

### 1) 手術と化学療法との組み合わせ

ステージ II~III の進行食道がんに対しては、以前は手術治療のみを行っていましたが、しかし、再発する症例が多いため、手術を予定しているステージ II~III の患者さんには、手術前にフルオロウラシル+シスプラチン療法を2コース行うことが本邦での標準治療となっております。

術前	栄養管理、口腔ケア
手術当日	入室2時間前まで飲水可(炭水化物含有飲料) メチルプレドニゾン(250mg/body)
1病日	抜管、ICU入室 NG除去、気管支鏡検査(反回神経麻痺の有無) 水飲みテスト→飲水 経腸栄養(腸鳴より)
2病日	一般病棟へ 胸腔ドレーン除去(< 350ml/day)
7病日	術後透視 食事開始(5分粥)
術後 8-13日	栄養指導、普通食へ徐々に食上げ
術後14日	退院

(図4)

### 2) 放射線治療と化学療法との組み合わせ(根治的放射線療法)

食道の扁平上皮がんは、放射線治療の効果が高いことが知られています。

手術は可能だが手術を受けたくない方や、心臓・肺の機能の状態や年齢などの理由で手術が難しい方などの場合に、手術の代わりに選択しうる治療法として当院でも行っております。

ご相談・ご紹介は下記までご連絡をお願いいたします。

東北医科薬科大学病院 消化器外科 中野徹 電話 022-259-1221 (代表)

# 東北医科薬科大学病院

## 消化器外科／肝胆膵外科 外来のご案内

### 対象疾患

食道～胃～小・大腸・肛門疾患、肝胆膵疾患、そけいヘルニア

### 新患受付

毎日受け付けており、予約なしでの当日の受付も可能です。

紹介状をご持参の上 受付時間8：30～11：30にお越し下さい。

がん診療が主ではありますが、地域医療への貢献が当院の重要な使命ですので、急性虫垂炎、肛門疾患、そけいヘルニアについても力を入れております。是非ご紹介下さいますようお願い致します。



左から、児山、長尾、岩指、武山、中野、柴田、片寄、荒木、小川

### 消化器外科外来担当医師一覧表

診療科		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
消化器外科	新患	岩指 元	柴田 近	片寄 友 中野 徹	小川 仁	中野 徹
肝胆膵外科	新患	片寄 友		片寄 友		
癌治療支援科（緩和科）	新患		児山 香	児山 香		

## ～連携センターからのお知らせ～

当院では、平成29年10月2日より毎週月曜日の午後に、小児科アレルギー外来を開設しております。

### 対象疾患

- 気管支喘息
- アレルギー性鼻炎
- アトピー性皮膚炎
- 蕁麻疹
- 化学物質過敏症
- 食物アレルギー
- アレルギー性結膜炎
- アナフィラキシー（食物依存性運動誘発アナフィラキシーを含む）
- 新生児・乳児消化管アレルギー

### 診察日

毎週月曜日 予約制となりますので事前予約願います。

予約時間 14:00 1名 15:00 1名 16:00 1名 です。

### 受付方法

紹介状に予約希望日を記載し連携センターまでFAXを送信下さい。

希望日が無い場合は最短でお取りできる日に予約いたします。

予約は医療機関の方のみお取りいただけます。患者さんからお電話をいただいても予約はお取りできませんのでご注意ください。

### 申込先

連携センター 電話 022-388-9593（直通） FAX 0120-25-9121（直通）

### ご挨拶

アレルギー外来 きたざわ ひろし  
北沢 博

こどものアレルギー疾患は近年増えており、今では小学生の約5%が食物アレルギーと診断されています。アレルギー疾患は命を直接脅かすことは少ないですが、こどもにとって生活で制限を強いられることが心理的、社会的に弊害をもたらします。アトピー性皮膚炎でプールに入れない、喘息で運動ができない、食物アレルギーで皆と同じ給食が食べられないなど、こどもにとって非常に辛いことです。そのようなこどもが必要最小限の制限のなか、すくすく、楽しく成長できるようにアレルギー専門医として正しく評価し、診療いたします。保護者の心配の強い疾患でもあり、気楽にご相談ください。よろしく願い申し上げます。



### 登録医の先生方へお願い

現在、呼吸器内科外来の診察までの待ち時間が長く、患者の皆様にご不便をおかけしております。待ち時間を緩和するためにも登録医の先生方にはなるべく予約を取っていただくようご協力をお願い申し上げます。

なお、急患の場合は連携センターまでご連絡下さい。

## ～新大学病院棟ができるまで 第3回～

### 新福室キャンパス Fukumuro Campus

医学部は、3年次から福室キャンパスで学習します。

東北医科薬科大学病院に隣接して建築予定の教育研究棟は、基礎・臨床医学学習のための教育エリアと、研究・実験エリアの2つのエリアからなり、さらに大学附属病院の新棟も建設され、2019年からは新病院棟において臨床実習を行います。

七北田川に臨む落ち着いた環境で勉強や実習に打ち込むことができます。



2016.8.26 第2教育研究棟(2階建)の鉄骨工事を進めています。



2016.9.30 第2教育研究棟の床工事、第1教育研究棟の基礎工事に着手しました。



2016.10.28 第2教育研究棟は外壁工事、床工事を進めています。第1教育研究棟は低層部の鉄骨建方を行っています。



2016.11.28 第2教育研究棟は外壁が張られ、内部の設備工事を行っています。第1教育研究棟は高層部の鉄骨建方に着手しました。